



燕市「読解力」育成プロジェクト通信

「読解力」育成の視点で先生方の学びをつなぐ

視察研修報告 東京都板橋区 板橋第一中学校 板橋第六小学校

9月30日（金）に9名の先生方（小学校7名・中学校2名）と東京都板橋区の板橋第一中学校と板橋第六小学校を訪問させていただきました。参加していただいた先生からの報告書から、視察内容を紹介させていただきます。



板橋第一中学校 2年生 社会科「近畿地方」
「阪神工業地帯の発展と現在の抱える課題を説明する。」

伊藤聡 校長先生からのお話

社会の定期テストでは、教科書の持ち込みを可としている。生徒が勉強しなくなるという意見もあったが、教科書のどこに何が書いてあるのか分からないと答えることができないため、教科書を読み込んでテストに臨む生徒が増えた。

板橋一中では読解力育成の取組の効果として、先生方が言葉を大切にすようになった。



板橋第六小学校 6年生 国語科「海の命」
「物語を読んで、考えたことを伝えよう」

研究協議会

☆本時のねらいが達成されたか評価するには OUTPUT が必要！大切！

☆正確な INPUT なくして、正確な THINK はできず、ねらう OUTPUT には届かない。

☆今、この時間で、この場面で、何を学ばせるのかを「焦点化」して授業を重ねることが大切。

○共書き・音読

- ・授業の最初に、今日の目標を共書きした。
- ・教科書を順番に音読した。漢字が読めなかったり、つかえたりすることがあった。

⇒共書きでも、音読でも感じたこと

これくらいなら読める、書けるだろうという言葉・用語も生徒にとってはそうではない。

- ・「日本の工業地帯・地域の生産割合の変化」のグラフを読み取り、阪神工業地帯がどのように変化をしたか考えた。

⇒多くの生徒は、年代と生産割合の変化を読み取っていた。さらに、総生産額と生産割合から阪神工業地帯の生産額を計算して比較する生徒もいた◎。すごい！！

- 教科書、掲示物（本時までの学習記録）、タブレット（ジャムボードで授業記録）、辞典、サインマップ（学習プリント）が「INPUT・THINK・OUTPUT」の場面で読み解く力を高めるための重要なアイテムであった。

- 自分の考えにぴったりと合う言葉を探し出すために、「愛情」、「友情」といった言葉の意味を国語辞典で調べ、言葉にこだわりながら、活発に議論しているグループもあった。

- 読解力を高めるためには、最終的には THINK だけではなく、OUTPUT が必要だと思った。

板橋区教育委員会指導主事、両校の校長先生には取組について大変丁寧に説明をしていただきました。ありがとうございました。

参加された先生が、校内研修用に、授業写真記録と協議会概要を大変見やすくまとめてくださいました(全5ページ!)。つばめつながる広場 HP に掲載させていただきました。他の先生方の報告書も掲載しています。ぜひご覧ください! 今後、授業動画も閲覧できるように掲載する予定です。

つばめつながる広場

<https://sites.google.com/g.tsubame-city.ed.jp/tsunagaruhiroba>

→読解力プロジェクト→中学校区グループ研修



令和4年度 産官教員研修視察 東京都板橋区立板橋第六小学校「読解力の育成」 本時の授業分析記録
第6学年2組 国語科公開授業 日時:令和4年9月30日(金) 第5校時
 ・単元名 「物語を読んで、考えたことを伝えよう」 教材 「海への舟」(作者 立松和幸)
 ・指導者 白鳥大輔先生 児童数 29人
 ・単元の目標 (全9時間)
 ○作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読み取ることができる。
 ○物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考え、考えたことを文章にまとめることができる。
 ・本時のねらい (8/9時間)
 ○作者が自分に語りかけるテーマを、叙述や理解したことにもとづいて考えることができる。
 ・本時の6つの基礎的読解力の重点 ※本時以上に意識して設定するのが原則。
 ○伝える際は、「誰が」「どうした」などの主語、述語の関係を意識させることで、自分の思いや考えを構成立てて伝えられるようにする。(④繰り返し解析)
 ①繰り返し解析 ②照応解析 ③同義文判定 ④推論 ⑤イメージ固定 ⑥具体例固定

①前時までに読み取ったことを指示物を使って簡単に説明【全体】(14:25) ②みんなで作ったか半習題から本時の課題を確認し復習【全体】(14:27)

③学習課題を自分のノートに「共書き」(後写)【個人】(14:28) ④本時の活動流れ「授業の見直し」を筆談【全体】(14:29)

⑤「考えるとき」の注意事項「読解解決の方法」を筆談【全体】(14:30) ⑥「サインマップ(ワークシート)」を配付【全体】(14:32)

⑦教科書の言語を参照して考える。
 ○主語や「述語」を明らかにして理解に促す。
 【活動】
 「誰が」「何をした」
 「誰が」「何を」「誰が」
 「誰が」「何を」「誰が」

⑧作者が自分に語りかける「テーマ」は何か?
 ⑨作者が「誰が」「何を」「誰が」の関係を意識させることで、自分の思いや考えを構成立てて伝えられるようにする。
 ⑩実際の試合をイメージして、ミニゲームやとりかご練習に取り組み、【イメージ固定】

先生方の気づき(参加者の報告レポートより)

A先生

これまで「いかに分かりやすく子どもたちに伝え、理解させられるかを考えていた」と気付かされた。どんな教材も、自分(教師)が先に読み解き、分かりやすくしたものを説明してきた。子どもが読み解く必要のない場を自分(教師)が作ってしまっていた。子どもたちが自ら学ぶ力、自己学習力を育むことが教師の仕事であるのに。

B先生

すべての教科、すべての授業が読解力との関わりの上で日々行われている。ということは、普段の授業を積み重ねていけば読解力は、自然に高まっていく。でも、「明確な意図」「具体的な方法」「実践の場面」「この程度まで高めたい」といった思いを教師がはっきりと持っていたら、読解力は飛躍的に高まるはずだと感じた。

C先生

視察後のバスの中、研修に参加した者同士、参観した授業内容を基に意見交流をした。

「他の教科だったら…」、「あのやり方が…」。こんな会話が普段の職員室でもできるとよい。



長善館若手教師塾

長善館若手教師塾実践例 No.5	中学校	第1学年	保健体育科
------------------	-----	------	-------

▷ 単元名 「サッカー」 イメージ固定 推論
 ▷ 本時の目標 チーム内の作戦を立て、チームでの役割を果たしながらゲームを楽しむことができる。

学習内容・活動 ○ チームでポジションを決めて、攻撃・守備の作戦を立てる。 ◎ チームの作戦を意識しながら実際の試合をする。	教師の支援や留意点 ○ 既存の知識(基本的なルールや連携の仕方)と新しく得た知識(ポジションの役割)からどうすればよい攻撃ができるかを論理的に考える。【推論】 ○ 実際の試合をイメージして、ミニゲームやとりかご練習に取り組み、【イメージ固定】
--	---



T:作戦シートを使って、チーム内でポジションを決めましょう。よく分からないときは、具体例を参考にしましょう。
 C:○○さんは足が速いから、チャンスの時にはMFの位置から走りこんでシュートを狙えるぞ。
 C:○○さんは速く蹴れるから、DFの役とロングパスが出せると良いんじゃないかな。
 C:あとは、味方が固まってしまうとパスができなくなるので、コートを広く使うようにしましょう。
 C:ゴールキーパーは○○さんで決まりだね。全体を見て指示ができるからね。

チーム内でポジションを決めさせることが作戦づくりの基になります。

どういう作戦を立てればいいのか?

予め、ポジションの役割を教えて、チーム内での役割を決めさせることにより、シチュエーションに合わせたプレイをイメージさせることができます。このことがチーム内の作戦の基になります。

若い先生方のチャレンジに学ぶ

若手教師塾での授業実践例を指導主事がシートにまとめて塾生の先生方で共有しています。今後、つながる広場にも掲載予定です。

若手教師塾でも読解力育成を共通の視点として授業づくりにチャレンジし、同年代の仲間とともに高め合っています。

ベテランの先生方にとっても、授業づくりのヒントとして活用していただきたいと思います。こちらぜひご覧ください!

□実践のポイント□

- ・中学校1年生での目指す姿「空いているスペースに走ってボールをもらう」の達成のためには、ボールをもっていないときの動きが大切です。これを身に付けさせるためには、『とりかご練習』や『ミニゲーム』を指導計画に位置付けることがポイントです。
- ・体育科の学習でも、授業の流れを視覚化することが大切です。本時は移動式黒板を使用して生徒に提示しました。
- ・生徒が頼くと思われる用語(ポジション、スペース、コーナーキックとゴールキック等)は予め丁寧に教えると学習がスムーズに進みます。
- ・実際の試合になるとどうしてもボールのある所に密集してしまうので、ミニゲームやとりかご練習等、生徒の実態に合った練習方法を工夫していくことがポイントになります。